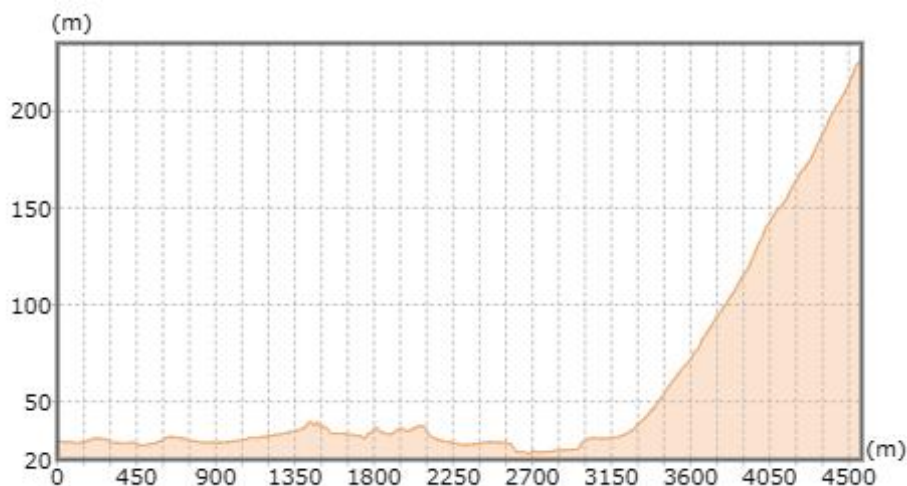


2023年12月特別例会報告
関東ふれあいの道茨城11 筑波山登山

開催日	2023年12月17日(日)		
開催日	2023年12月17日(日)		
集合場所	標準コース	筑波山神社入口バス停	(筑波山観光案内所前)
	チャレンジコース	大池公園	体育館駐車場
集合時間	標準コース	10時40分	
	チャレンジコース	8時30分	
コース	大池公園～つくば道～観光センター ～筑波山神社～御幸ヶ原コース～御幸ヶ原 ～ケーブルカーで下山～筑波山神社～月水石神社 ～つくば道～大池公園		
ゴール時間	標準コース	12時35分	御幸ヶ原
	チャレンジコース	15時30分	大池公園
距離	標準コース	6km(登り加算あり)	団体歩行
	チャレンジコース	18km(登り加算あり)	団体歩行
参加者	11名		
天候	晴れ		

ウォーキング状況

待ちに待った筑波山登山です。
精鋭9名が大池公園体育館の駐車場集合です。
天気は少し肌寒いですが絶好の山登り日です。
期待と少しの不安をいだいて出発です。



筑波山の麓はなだらかな平地を3km程進みます。

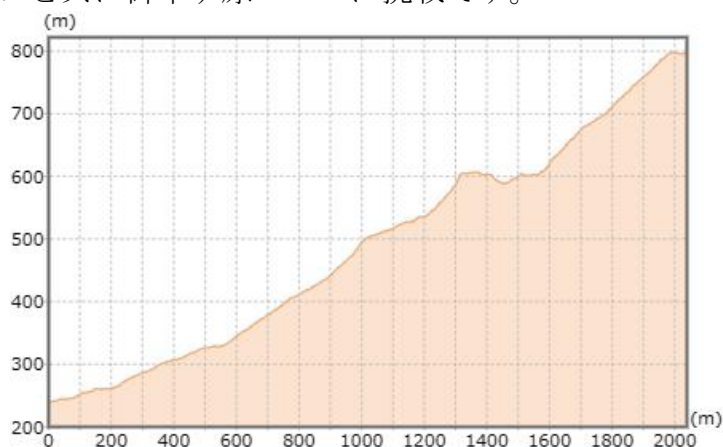
普門寺でトイレ休憩、桜井菓子店で KM さんからのあんドーナツの差し入れ有難うございます。美味しかったです。
これで筑波山神社迄の坂道は問題なく・・・



何度か休憩しながらも、順調に坂道を登ります。
筑波山神社手前で富士山が良く見えています。



予定より少し早く 10 時過ぎに筑波山観光案内所に到着です。
集合時間迄待ちましたが残念ながら参加者はなく、ここで待機していたスタッフと共に御幸ヶ原コースに挑戦です。





御幸ヶ原コース



登頂開始



思ったよりキツイ



所々で休憩

ゆっくりゆっくり登ります、普段の平地でのウォーキングと違い、太腿に応えます。ケーブルカーとクロスする手前の母屋がある休憩所で大休憩。ここで、HSさんから「かりんとう饅頭」の差し入れ。美味しい、あと半分頑張りましょう。差し入れ有難うございます。



沼田屋のかりんとう饅頭

ここから女性陣のパワー炸裂、男性陣が置いていかれます。



最後の階段をもがきながら登りゴール。御幸ヶ原到着です。
御幸ヶ原は日曜日と天気が良かったこともあり多くの人で賑わっていました。
関東平野を一望する景色を楽しんだ後、気温3℃で汗をかいた後でもある
ので、麓で昼食をとることにしケーブルカーで下山することになりました。

筑波山神社で昼食後、大池公園へつくば道の横道を下ります。
途中、月水石神社、飯名神社で参拝をし無事麓に到着。



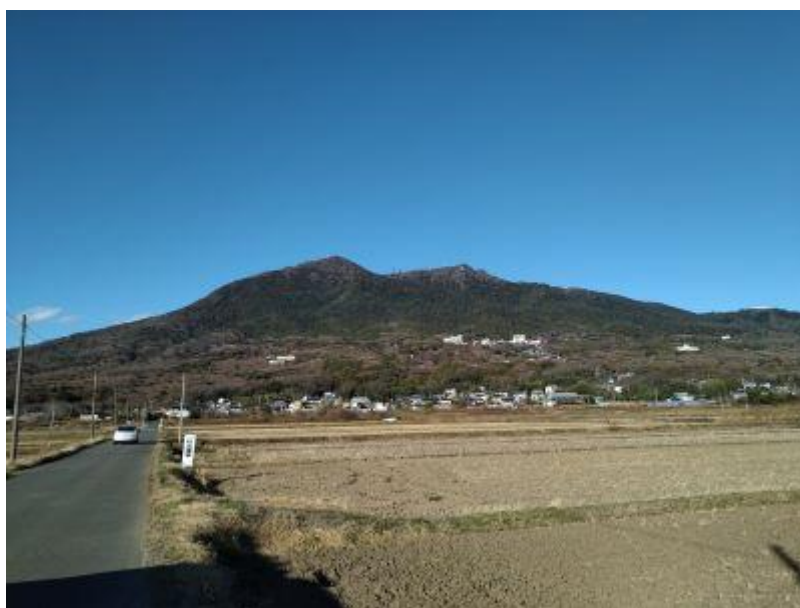
月水石神社



飯名神社

田園の道を歩きつくば道に戻り、北条地区の街を経由して、無事に大池公園に到着、ゴールしました。皆さんご苦労様でした。

これからも定期的に低山登山を行いますのでご参加宜しく申し上げます。



下山後の田園の中で、振り向くと「また来てね」と筑波山が

以 上

記 松崎 寛

最後に各神社の由緒案内説明文を添付します。

イワナガヒメの「謂われ」

この神社は、イワナガヒメを祭神としております。
 古事記・日本書紀に書かれている様に大山津見神（山の神）の娘で
 コノハナノサクヤヒメの姉にあたります。
 天孫ニニギノ命（天照大御神の孫）は、コノハナノサクヤヒメに
 結婚を申し込むが、父親の大山津見神は、イワナガヒメを添えて
 姉妹二人を妻として、差し出しました。
 ところが醜い姉は送り返し美しい妹とだけ結婚します。
 古事記に従えば、大山津見神は次の様な重大な発言をする。
 「私の娘二人を一緒に献上した理由は、イワナガヒメを妻にすれば
 天つ神の御子の生命は雪が降り、風が吹いても常に石の様に
 不変不動であろう。又コノハナノサクヤヒメを妻にすれば木の花が
 咲きほこる様に繁榮するだろうと誓約をして差し上げたからだ。
 ところがあなたはこの様にイワナガヒメを返して、コノハナノ
 サクヤヒメだけを留めた。だから天つ神の御子の生命は、木の花の
 様にはかなくなるであろう。」
 日本書紀第九段一書二では、送り返されたイワナガヒメ本人が
 「もし天孫が私をしりぞげずに妻としたならば、生まれる子供の
 生命は長く永遠に不変だったろうに、ところが今すでにそうでは
 なく、あなたは妹だけを妻にした。だからその生む子供は必ず
 木の花の様に散り落ちてしまうだろう。」
 と呪いの言葉を発したとされている。
 つまり山の神の娘イワナガヒメは、天皇又は人間全体に、死の運命を
 定める宣告をしたとされている。
 古事記によれば、コノハナノサクヤヒメは天つ神の御子を出産します。
 最初はホデリの命、海幸彦次に生まれたのがホスセリの命、最後に
 生まれたのが皇室の祖先となるホヲリの命（山幸彦）またの名は
 ヒコホホデミの命であると云う。
 イワナガヒメとコノハナノサクヤヒメの姉妹は、人類全体の死の起源
 神話になっている。天皇（又は人間）は、石イワナガヒメではなく、
 植物（コノハナノサクヤヒメ）との結婚によって誕生したために石の
 ように不死ではなく、植物のように子孫を生み残して死ななくては
 ならなくなかった。
 それ故にイワナガヒメはこの筑波の地に留まって世の人々を見守り
 ながら、現在も永遠に息づいています。

イワナガヒメ（月水石神社）

月水石神社

飯名神社由来記

一 古くから稲野（飯名野）の弁天として近隣の人
 人の崇拝を集めていた神社であるがその創建に
 付て村方の支書には何の記録も残っていない。
 但し奈良時代の和銅から養老にかけて年間へ
 七三三（七三三）に朝廷の命に依り提出し
 た常陸風土記の信太郡（今の常陸郡）に提出し
 有に「其ノ里ノ西ニ飯名ノ社。此即筑波ノ岳ニ所
 成以前ノ創建也。」とあるのが常陸風土記
 昭和四十二年（一九六〇年）三月十四日
 一 波歴史散歩社として氏は、飯名神社の創建は、
 「昔から神体山として崇められた筑波の神の里
 宮として創建され、六所神宮と同性格のもの
 あり」と述べられている。
 一 六所神宮大宮司であった長戸家文書に「飯名野
 神社位記があるが、これには次の記載がある。
 飯名野ノ地ニ宮造立有テ保食神鎮座ヲ給フ。
 其後天治三年（一〇六〇年）三月十四日
 一 筑波山中腹弁慶七代附近の登山道より出土し
 た鐲口には「常陸國北条郡白井村稲野宮鐲口壇
 那桑文明十一年（一〇七九）五月二十五日の銘がある
 一 万葉集（三三三）七五九までの歌詩）
 卷十四歌に「筑波嶺に雪も降らぬいなをかも、
 かなしきころがにぬ子さるかも。」がある。いなもか
 か万葉仮名で伊奈乎可と記されているので「飯名
 岡」「稲岡」「香志がし」等と解釈されている。
 一 例祭日、毎年旧正月初巳の日
 一 祭礼は毎年右の通り行われ、正月初巳の日にな
 つている天正の再建遷宮の日が正月初巳の日にな
 っている。これに依り、伊奈神ノ市村嶋姫命
 一 祭神、宇気母知神（保食神）市村嶋姫命
 一 配祀、大己貴命、金山比古命、須佐之男命
 一 昭和三十七年一月二十三日、宗教法人設立
 飯名神社事務所

飯名神社